NEWSchool 第４号 (H29.11.24 発行)

下関北高校通信

平成 29 年 11 月設置
平成 30 年４月開校

山口県立下関北高等学校
山口県立響高等学校
山口県立豊北高等学校

山口県立響高等学校と豊北高等学校は再編統合し、平成 30 年４月に、現在の豊北高校の校地に新たに山口県立下関北高等学校が開校します。来年４月の入学生は、新高校の１期生となります。
この学校通信“NEWSchool”では、新高校の情報を随時紹介してまいります。

下関北高校設置！

浅原司県教育長の御臨席をいただき開催した設置式では、竹村校長が、「桜の花が咲くころ、新しい制服に身を包み、希望に胸を膨らませ、入学してくる下関北高校第１期生の期待、地域の期待にしっかりと応えることができるよう、教職員、在校生徒、一丸となって準備を進め、４月には新しい力を得て、新しい学校の、新しい歴史を拓いてまいることをお誓います。」と、新高校の開校に向けた抱負を力強く述べました。

開校準備室の札を設置する竹村和之校長（中央）、清水広介校長（右）と浅原司県教育長（左）＝１日、下関市

下関北高の設置式
豊北と響統合 来年度に開校

下関市豊北町滝部の豊北高校（竹村和之校長、141人）と同市豊浦町小串の響高校（清水広介校長、216人）が統合して2017年度に豊北高内に開校する下関北高の設置式が1日、豊北高であり、両校の校長ら教職員と県教育委員会の関係者25人が出席した。

浅原司県教育長が竹村校長に開校準備室の札を手渡し、竹村、清水両校長が交付された。

浅原教育長が「開校まであと5カ月。設置式を機に県教委としても、教職員と一丸となって生徒が夢を育み、志を持って学ぶことができる学校づくりにまい進する」、竹村校長は「両校の歴史と伝統を継承しながら、下関市の北部唯一の普通科高校として生徒や保護者、地域の期待に応える学校にならなければ。地域と協働したさまざまな活動も展開していく」と述べた。

設置式に先立ち、浅原教育長が竹村校長に下関北高校長（兼務）の辞令を交付した。

豊北高は1945年に県立滝部女子農業学校として創立、響高は48年に県立下関女子高併設黒井分校として黒井中学校内に設立された。

2017 年 11 月２日 山口新聞

新高校の部活動を紹介します！

下関北高校の部活動は、しばらくの間、同じ校地内にある豊北高校の２、３年生と一緒に活動し、合同して大会等に出場することが基本となりますので、新高校で活動する現在の豊北高校の部活動の様子を紹介します。また、響高校の部活動との合同練習や合同での大会出場を検討しています。

硬式野球　１年 12 名２年 10 名、マネージャー６名で活動しています。秋の大会では１回戦を突破しました。応援してくださる地域の方へ感謝の気持ちも込めて、地域貢献活動にも取り組み、人間力を高めます。

吹奏楽　１年６名、２年１名で、少人数ながら各種コンクールや地域の行事・演奏会に参加しています。楽器初心者の人、男子部員も大歓迎。３月にはスプリングコンサートを開催予定です。是非ご来場ください。

バレーボール（女）　３年生引退後は、１年５名２年２名で活動しています。先輩後輩の仲がよいはつらつとしたチームで、確実に１回戦を突破できるよう練習しています。

ＪＲＣ　豊北高校のボランティア研究会は、夏祭りなどの地域行事や、保育園、小学校の学習支援、障害者や老人介護施設など、本当に様々な活動を行っています。その活動を、ＪＲＣ部として受け継ぎます。

サッカー（男）　選手権では３回戦で準優勝した西京高校に負けました。３年生引退後の現在は、１、２年８名、マネージャー２名で活動してます。４月からは、新しい戦力を迎え、再び豊北旋風を巻き起こします。

テニス（男）　１年５名、２年 11 名、全員が初心者からのスタートで頑張っています。強くなりたい者も、運動に自信の無い者も、すべての生徒が自分のペースで楽しく練習に取り組んでいます。全員がそれぞれの競技力レベルに応じて目標を設定し、チームとしても上位進出を目指しています。

ソフトテニス（女）　女子は、１年８名、２年３名が、放課後、元気よく白球を打っています。みんな明るく仲のよさが自慢です。たくさんボールを打って、一つでも二つでも勝てるよう力をつけます。

百人一首かるた“達人”伝授
全国高校総合文化祭出場 県代表チームの豊北高２年・石田さん
滝部小児童「速くてびっ

豊北町滝部の滝部小学校（光田裕二校長、115人）の4年生5人が14日、近くの豊北高校（竹村和之校長、141人）を訪れ、同高の“かるたの達人”から競技かるたの指導を受けた。

達人は、8月に開催された全国高校総合文化祭小倉百人一首かるた部門に県代表チームの一員として出場した2年の石田彩夏さん(16)。

最初に小学生5人のチームと石田さんが対戦。児童は石田さんの札を取る速さに驚いていた。児童は百人一首を覚えるこつや速く取るこつ、強くなる方法などを質問。石田さんは「覚えにくい札は語呂合わせで覚えるとよい」「札を払う練習で素振りをするとよい」「とにかく練習することが大事」などと実演を交えて指導した。児童は習った方法を参考にしながら再び石田さんと対戦。札を獲得し

石田彩夏さん（左）と対戦する滝部小児童＝14日、豊北町

2017 年９月 15 日 山口新聞

このほか、新高校では、これまで豊北高校にはなかった**ソフトテニス部（男）**、**陸上競技部（男女）（トラック競技）**、**相撲部**、**総合文化部**を新たに開設します。

相撲部は、しばらくの間、響高校の相撲場で、響高校の相撲部と合同で練習する予定です。

総合文化部は、新聞・美術・ESS、総合家庭など、両校にあった文化系部活動を統合し、それぞれの生徒が、個々に定めた文化活動を行います。

また、新高校では、生徒が学校外で行う活動についても、可能な限り支援します。右の報道記事は、地域で行われる百人一首の学習会に参加している生徒の活躍を紹介した記事です。

新高校で実施する学習のうち、実施が可能なものは、今年度から先行実施しています。

新高校で開設する学校独自の教科「地域探究」のほかにも、通常の授業の中でも、生徒の皆さんが経験を積み重ね、高校卒業後の進路や受験、社会に出た時に力となる、より実践的な学習を行います。新聞で紹介された家庭科や地理歴史科（世界史）の授業を紹介します。

一足お先に・・

-新高校つまみ食い-

2017年10月21日　山口新聞

地元の魚料理にトライ　豊北高で実習

豊北町滝部の豊北高校（竹村和之校長、141人）で19日、魚料理実習があり、2年生23人が参加した＝写真。

県漁協豊浦地区漁協女性部連絡協議会（中津喜美子会長）の8人と元調理師で県漁協青壮年部豊北支部の春永克巳育成部会代表（72）が同校を訪れ、市内の漁港で水揚げされた「下関北浦特牛イカ」とレンコダイを使って調理を指導した。

生徒たちはアドバイスを受けながらタイを三枚におろし、イカをさばいた。タイの身に包丁を入れて切り離すのに苦戦する生徒も。タイはパン粉やハーブなどを付けてオーブンで焼き、イカはゆでて野菜とあえてマリネにした。タイのあらを使ったすまし汁も作った。

出来上がりは早速試食。池田一磨さん（17）は「自分が作ったものを食べることはめったにないのでいい経験になった」、春永代表は「魚1匹丸ごと調理して食べるおいしさを知り、地元の魚を食べてほしい」と話した。

豊北地区魚食普及推進協議会（江本邦治会長）と連携した取り組みで、家庭科の授業を活用した。

2017年10月26日　山口新聞

一緒にスイートポテト作り　豊北高生と園児

出来上がったスイートポテトを試食する園児ら＝24日、豊北町

豊北町滝部の豊北高校（竹村和之校長、141人）で24日、3年生7人が同町神田の豊北きらきらこども園（田中義道園長、57人）の年長園児13人とスイートポテトを作った。

材料には同校の生徒が校内で育てたサツマイモを使用。高校生が園児に作り方を指導し、ハートや星、さいころなどさまざまな形にしてオーブンで焼き上げた。

完成後は早速試食。焼きたてのスイートポテトを口々に「香ばしい」「おいしい」などと言いながら味わった。和田虹架ちゃん（6）は「甘くてやわらかかった。また作りたい」と笑顔を見せた。

磯辺照さん（18）は「園児と接するなかで教えることの難しさがよく分かった。自分が明るく振る舞ったら園児も楽しくなってくれた」と話した。

家庭科の「生活と福祉」を活用した体験学習での取り組み。

角島灯台の歴史学び観光ＰＲ考える

豊北高で特別授業

角島灯台は、灯台の父と呼ばれ、明治新政府がイギリスから招いたリチャード・ヘンリー・ブラントンが設計。藤岡さんは、国内で唯一、当時のままの姿が残ることなどを紹介した。灯台に観光客を誘致する方法などを話し合う時間もあり、生徒からは「灯台の周りの田を整備してホタルを増やす」「イカやアワビなど地元の食材をアピールする」などの意見が出た。

有光紀子さん（16）は「世界史から地元の観光につながって面白かった。地域をどう盛り上げるか考える良い機会だった」と話した。

授業は学校と教員が共同で講義する「博学連携」の一つ。歴史と現在のつながりを学び、郷土への愛着を育もうと取り組んだ。

角島灯台の観光ＰＲ方法について意見を交わす豊北高生＝8日、下関市

下関市豊北町滝部の豊北高校（竹村和之校長、141人）で8日、つのしま自然館の藤岡達雄自然解説員による世界史の特別授業があり、1年生51人が角島灯台の歴史などを学んだ。

2017年11月10日　山口新聞

新高校の校歌(歌詞)・校章を募集中！

県教育委員会が、下関北高校の校歌(歌詞)・校章の募集を始めました。応募規定等は、次のとおりです。中学生の皆さんも応募してください。(以下、山口県教育委員会発表資料から抜粋)

■応募規定（どちらか一方または両方に応募できます。）

校　歌（歌詞）	校　章
○一番、二番、三番程度 ○応募点数制限なし ○応募作品は自作未発表のもの ○応募の際は、住所、氏名、年齢、電話番号を明記すること ※　作曲は専門家に依頼予定	○彩色は黒一色 ○画材は自由 ○作品に簡単な説明をつけること ○官製ハガキまたはハガキ大の用紙を使用 ○応募点数制限なし（ただし１枚につき１点） ○他の商標を模倣していないこと ○応募作品は自作未発表のもの ○応募の際は、住所、氏名、年齢、電話番号を明記すること

作成上の留意点
- ◇下関北高等学校で実施する教育の特色がイメージできること
- ◇生徒の学習内容が感じられ、明るく希望を抱かせ、生徒にとって親しみやすいもの
- ◇下関北高等学校が所在する地域の特色や歴史が感じられるもの

■応募資格　どなたでも応募できます。

■応募方法　郵送または電子メール
ファイル形式は、「ワード」「エクセル」「一太郎」「ＰＤＦ」のいずれか

■締切り　平成２９年１２月４日（月）（郵送の場合、当日消印有効）

■発表等
○校章は１月中旬に、校歌（歌詞）は３月中旬に発表を予定しています。
○応募いただいた作品のうち、校歌、校章として、それぞれ１点を使用します。
○使用の際、補作する場合があります。
○応募作品は、お返ししません。
○採用作品の著作権は、山口県教育委員会に帰属します。
○採用作品の作成者には、通知するとともに、開校式で表彰します。
　なお、謝礼金はありません。